

しがだい



今こそ習得、
生成AIと共生するスキル

彦根キャンパス 滋賀大学講堂前



滋賀大学へのご寄附のお願い

本学では『滋賀大学基金』を設置し、学生の教育・研究、国際交流、修学、課外活動支援、データサイエンス教育研究の高度化など、滋賀大学を幅広く支えていただくご支援をお願いしています(税制上の優遇措置の対象です)。皆さまの温かいご支援・ご協力をよろしくご願ひ申し上げます。

『滋賀大学基金』の種類

- 一般基金**
 - 一般基金(彦根高商創立百周年記念事業)
 - ・学生の教育・研究や国際交流活動など、大学全般に対する幅広いご支援
 - ・滋賀大学の源流である彦根高商創立百年にあたり、経済とデータサイエンスの融合による新しい「ビジネスサイエンス」拠点としての展開に対する幅広いご支援
 - 一般基金(ウクライナ支援募金)
 - ・ウクライナからの避難学生の受け入れ等に対するご支援
- (以下、特定基金：特定目的へのご支援)
- データサイエンス・AIイノベーション・コモンズ形成基金**
 - ・データサイエンス・AI分野のイノベーション・コモンズ(共創拠点)を形成するためのご支援
- 修学支援事業基金**
 - ・経済的な理由で修学が困難な学生に対するご支援
- スポーツ・文化活動基金**
 - ・学生の課外活動に対するご支援(特定の部活動への支援を指定可)
- スポーツ・文化活動基金(彦根地区艇庫建設)**
 - ・課外活動充実のため、彦根地区の艇庫建設を目的としたご支援
- データサイエンス基金**
 - ・データサイエンス教育研究の高度化に対するご支援
- 経済学部基金**
 - ・経済学部における教育研究活動に対するご支援
- 教育学部基金**
 - ・教育学部における教育研究活動に対するご支援
- 附属学校園いまを生きる基金**
 - ・教育学部附属学校園の教育環境充実をはじめ、教育活動に対するご支援
- 藤村泰子記念基金**
 - ・障害児者の音楽教育・音楽活動に対するご支援

詳しくは寄附金ホームページをご覧ください。
<https://www.shiga-u.ac.jp/kikin/>

〈お問い合わせ先〉
滋賀大学基金室(広報課内)
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1丁目1番1号
TEL 0749-27-1004 FAX 0749-27-1129
E-mail kikin@biwako.shiga-u.ac.jp



滋賀大学広報誌 Vol.59

しがだい

[発行日] 2024年4月

[発行] 国立大学法人 滋賀大学

[編集] 滋賀大学広報部会

須齋 正幸(理事・副学長)

蔵永 瞳(教育学部)

村田 透(教育学部)

松田 有加(経済学部)

宮西 賢次(経済学部)

飯山 将晃(データサイエンス学部)

西山 さよ(広報課)

滋賀大学広報課広報係

〒522-8522 彦根市馬場1丁目1番1号

TEL 0749-27-7524

E-mail koho@biwako.shiga-u.ac.jp



アンケートのお願い

「しがだい」のより充実した誌面づくりのために、Webアンケートのご協力をお願いいたします。



学生広報サポートチーム考案
カモンちゃんLINEスタンプ販売中!



LINE STOREを
チェックせり!



カモンちゃん

日本の開国を主導した井伊直弼公をモチーフにした滋賀大学公式キャラクター。名前は直弼公の官位、掃部頭(かものかみ)に由来しています。滋賀大学に“come on”という意味も掛けられています。本学学生が在学中に取り組み生み出されました。



彦根キャンパス滋賀大学講堂にて

滋賀大学長 竹村 彰通

Profile

1952年生まれ。1976年東京大学経済学部卒業、1978年東京大学大学院経済学研究科理論経済学・経済史学専門課程修士課程修了。米国スタンフォード大学統計学部客員助教授、米国パーデュー大学統計学部客員助教授、東京大学経済学部教授、東京大学大学院情報理工学系研究科教授を経て、2015年5月滋賀大学に着任。2017年4月から滋賀大学データサイエンス学部長、2022年4月から現職。

学長メッセージ

生成AIを使いこなす力をつけよう

積極的な生成AIの活用と、教育界で一步先をゆく研究を

2022年秋に公開されたChatGPTは大きな驚きを持って迎えられました。ChatGPTは公開からわずか3カ月で1億人以上のユーザーを獲得したとされており、その影響の大きさが理解されます。生成AIの大学での取り扱いについては、大学教育に対する影響の大きさから、すでにさまざまなガイドラインが出されています。文部科学省は2023年7月13日に「大学・高専における生成AIの教学面の取扱いについて」を通知し、各大学において、(1)利用の実態把握、(2)利用のルール化、および(3)対応の適宜見直し、をするように求めています。

滋賀大学でも、このガイドラインなどをベースに、7月14日に「滋賀大学における生成AIの利活用に対する基本的な考え方」を公表しました。そこでは、生成AIの使用を一律に禁止することはせず、使用に関するリテラシーを学生・教職員全員が身につけ、教育・研究・業務の諸活動に活用することをめざすとし、その上で、教育の観点、研究の観点、業務の観点での注意点をあげました。文部科学省の指針と比較しても、生成AIに対してより積極的に取り組む姿勢を示しています。生成AIは間違った情報を出力したり、わか

りにくい形で著作権の侵害をしてしまうことがあります。これらの点に十分注意しつつも、生成AIを使いこなす能力を身につけることが重要ではないでしょうか。情報の正確性や既存の情報との類似性に関する注意力を磨くことにより、生成AIを用いることで、我々は知的生産性を大きく向上することができると思います。

滋賀大学のこのような姿勢の背景として、滋賀大学の先端的なデータサイエンス・AI教育があげられます。滋賀大学は2017年に日本初のデータサイエンス学部を創設し、全国を先導する教育を進めてきました。また文部科学省の数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度にそって全学的な教育体系を整備し、リテラシーレベルおよび応用基礎レベルの認定を得ています。さらに2023年5月に公募のあった文部科学省の大学・高専機能強化支援事業「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援」には、データサイエンス研究科および学部の定員の大幅増とAI分野の教育強化を含む構想を提案し、ハイレベル枠で採択されました。生成AIの活用においても滋賀大学は一步先を行く教育研究を進めていきたいと考えています。

学長メッセージ

01 生成AIを使いこなす力をつけよう

滋賀大学長 竹村 彰通

巻頭特集

03 今こそ習得、 生成AIと共生するスキル

08 日本初の大学院教育プログラム MBANがスタート

09 しがだいChallengers

卒業生インタビュー

13 輝く卒業生たち

NPO法人Since 麻生 知宏さん/生鷹 幹太さん/門脇 真斗さん
アステラス製薬株式会社 後藤(村井) まどかさん
アクセンチュア株式会社 朱 澤胤さん

国際交流

16 グローバルな価値観に触れ 視野を広げるきっかけに

17 ニュース&トピックス

学生広報サポートチーム企画

19 Voice of freshman. in shiga univ.

shiga-uni リアルタイムしがゆに

21 CLUB & CIRCLE

クラブ&サークル



琵琶湖疎水

学生広報サポートチーム活躍中！
広報誌の表紙モデル、記事企画と制作(P19、P20)、LINEスタンプ
考案(裏表紙)など、大学の広報活動を学生目線でサポートして
います。一緒に活動したい方は本学HPをご覧ください。



表紙協力(左から) 原聡志/山本帆夏/野村健太(学生広報サポートチーム)

今こそ習得、 生成AIと共生するスキル

昨今、急速に普及する「生成AI」について、
滋賀大学では、教育・研究活動を飛躍的に向上させる可能性を秘めているとし、
積極的かつ適切な利活用の方針を打ち出しました。
そこで生成AIを知り、より有効な活用、そして課題について考えます。

データサイエンス学部 南條教授に聞く

知っておきたい生成AIの仕組みと活用

生成AIはデータから学習し 高確率の内容を出力するツール

ChatGPTをはじめとする「生成AI」※1は、文章や画像などを瞬時に、高精度で作成することから、一般的には最新鋭の研究、未来の技術と捉えられています。実は今に始まったことではありません。生成AIのAI(Artificial Intelligence)、つまり人工知能は1950年代から研究されている歴史ある領域です。ただ、「AIとは何か」と問われると、実は明確な定義はありません。現状では、「人間が知能を使ってすることを機械にさせるための仕組み」と考えてよいと思います。詳しくは人工知能学会のWebページなどで調べてみてください。

生成AIの劇的な進展には、深層学習が大きく影響しています。深層学習は機械学習※2の一種です。深層学習以前の機械学習ではデータの特徴量は人が与えて、機械はそこからルールなどを学習していました。一方、深層学習では多層ニューラルネットワークを使って学習します。ルールなどの学習時に、データのどこに着目するかの特徴量(特徴量抽出)も機械自身で行います。言語、音声、画像から意味を表す表現を取り出せるようになり、この表現から、言語、音声、画像などを生成できるようになりました。ChatGPTが「吾輩は、の続きは?」「10+5=?」

に対して、「猫である」「15」と出力できる仕組みは、シンプルです。深層学習で得た膨大なデータから入力ワードと結びつく確率の高い語を選んで回答しています。そこには回答の正確性の判定は含まれていません。つまり、生成AIの出力内容は正しいとは限らず、鵜呑みにするのは危険です。

使い方の工夫次第では 優秀なアシスタントに

では、生成AIをどのように使えばいいのか。私は、「仕事の早い優秀なアシスタント」と捉えるのが良いと考えます。例えば、プログラミングにエラーがないかをチェックさせたり、より優れたコードを提示させたり、頭の中にあるアイデアを具現化していくためのプロセスやノウハウの設計を相談したり、苦しい作業を任せたりするのも効果的な使い方といえるでしょう。今後、生成AIはさらに進化し、できることが一段と増加・向上していくでしょう。だからこそ、学生にはAIリテラシーと出力内容に対する批判的な視点を持って、積極的に使うことが求められます。デジタルネイティブ、AIネイティブと呼ばれる若い世代が、大胆で画期的な活用方法を見出し、生成AIの新しい価値を創出してくれることに期待したいと思います。



南條 浩輝 教授
データサイエンス学部

2022年に滋賀大学に着任。滋賀大学データサイエンス・AIイノベーション研究推進センターのセンター員を兼任。専門は情報学、知能情報学。

※1 生成AI
AIに学習させたデータをもとに、新しいデータ(成果物)を生み出す技術。

※2 機械学習
AIにデータを与えて学習させ、そこから法則性などを見つけ出して予測や識別、分類を行えるようにする技術。

もっと知りたい!

生成AIのQUESTION

QUESTION 01

生成AIでできることや活用の範囲、可能性などを教えてください。

山本 帆夏さん データサイエンス学部



Ⓐ 現段階では一般にも普及した文章生成をはじめ、テキストをもとに画像やイラストを作ったり、作曲したり、動画を制作することができます。ビジネス、日々の生活、社会と、活用の範囲は無敵大といっても過言ではないでしょう。ヒューマンエラーのリスクがある作業の代行、新しいアイデアや価値の創出などによって、生産性、利便性の向上、社会課題の解決が期待されています。(南條教授)

QUESTION 02

生成AIから「わからない」と回答されたり、欲しい情報が得られないことがあります。

原 聡志さん 経済学部



Ⓐ 有効な情報や回答を得るには、入力する質問のクオリティがカギとなります。授業や研究について教員に質問する際、的を射た問いであるほど、知りたかった回答が得られるのと同じく、生成AIもわかりやすく質問すれば、精度の高い情報や回答が出力されます。そのため、知りたい内容を明確にし、順序立てて深掘りしながら質問していくこと。わからないから答えを教えてくださいといった曖昧な問いは、生成AIには向いていません。活用したい分野の自分自身の知識や到達目標があることも大前提です。(南條教授)

QUESTION 03

生成AIを利活用する上での注意点はありますか?

島津 心暖さん 教育学部



Ⓐ まず生成AIの出力内容を自ら精査することが必須です。誤った情報、他者の著作物に類似した内容などを出力する場合があります。著作権や商標などを侵害しかねません。また、深層学習に使われたデータや入力時の情報しかインプットされていないので、出力内容が古い場合もあります。なお、レポートやテストなどに生成AIの出力内容をそのまま書き写すことは盗用、剽窃にあたります。なお、今後は生成AIへの入力内容を生成AI自身が学習することで、生成物を経由して情報漏洩する可能性もあります。未発表の研究内容や機密情報、個人情報を入力することも厳禁です。(南條教授)

滋賀大学における 生成AIの利活用 について

滋賀大学では、昨年7月、竹村学長より教職員・学生に向けて生成AIの利活用について指針が発表されました。学生向けの一部を抜粋して、紹介します。

※状況に応じて適宜更新予定。

◆大学としての方針

本学では、生成AIの使用について一律に禁止することはしません。むしろ生成AIを活用することを推奨します。生成AIの出力内容を批判的に分析し、上手に使いこなすことができれば、知的欲求や能力を高め、教育・研究活動を飛躍的に向上させることも可能です。生成AIを禁止するのではなく、生成AIを活用するリテラシーを学生全員が身に付け、積極的かつ適切に活用できるようになることが重要だと考えます。一方、使い方を誤ると、学修活動を妨げ、他者の権利を侵害することにもなりかねません。「滋賀大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の履修などを通じ、学生全員がAIに関する正しい知識及び技術を身に付け、AIの扱い方や活用法、問題点について日々考えて行動してください。

◆授業での利用

大学として使用を一律に禁止することはありませんが、授業やゼミによっては、その特性に応じて生成AIの利用を制限する場合があります。例えば、レポート・課題などで独創的なアイデアが求められる際や、音楽・芸術などの創作活動の際などで制限することも考えられます。各授業や研究活動における生成AIツール利用の可否については、授業担当教員や指導教員の指示に従ってください。

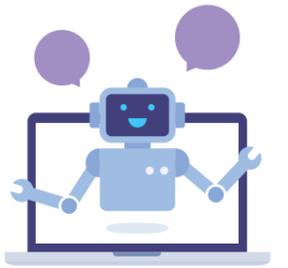
◆生成AIの使い方

論点整理や、情報収集、文書校正など、大学での学びの補助・支援としての活用が考えられます。生成AIへの指示文を工夫することで、よりイメージに近い出力結果とすることもできます。どのように生成AIを扱えばよいか、どういった場面では使えないか、自身で考えてみてください。大学での学びは、知識を生み出す過程を通して思考能力を高めることを目指すものです。そのため、考える主体が学生の皆さん自身であることに何ら変わりはありません。生成AIはあくまでも学生の皆さんの成長を助ける道具の一つです。生成AIをツールとして使いこなすことを意識してください。



滋賀大学における
生成AIの利活用について
(学生のみみなさんへ)
全文はこちらから

生成AIは教育・研究をどう変える？



滋賀大学では、学生だけでなく教員にも生成AIの活用を推進しています。学生への教育、そして自身の研究分野において、教員たちは生成AIをどのように捉えているのでしょうか。3学部を代表して、6名の教員に聞きました。

■ 教育学部

イニシアチブを手放さず問いを立てる

最初にChatGPTに興味を持ち利用したのは2023年2月です。学生によるレポート作成をイメージし、ある用語についての説明を求めたところ、概要や研究史上の位置づけ等をまとめた内容が提示されました。それは多くの誤りを含むものでしたが、価値や将来性に言及し総括するといった、利用者の期待に添おうとするふるまいが見られたことが印象的でした。つい先日、同一の問いを投げかけてみると、多くの誤りが削除され回答の質が向上していました。こうし

た流動性の面でも単なる語句検索との相違を実感しています。生成AIは現存する知の集積を活用して新たな知見を構築します。特に人文系関連の分野において、基盤となる情報次第では公正であるとは言えない不適切な内容が提示されることもあるでしょう。しかし、こうした技術が無数の可能性を有しているのは明白です。問いを立てる主体としてのスキルを磨き、研究・教育両面でのより良い活用法を模索し続けたいと考えています。



井ノ口 史 教授

大学では初等教科専攻 国語専修[初等教育コース]/国語専攻[中等教育コース]を担当。研究分野は万葉集をはじめとする日本古典文学。

■ 教育学部

生成AIを超える創造はさまざまな表現活動から

教育学部美術教育の「未来の椅子デザイン」授業では、実際に椅子に触れて座る鑑賞・考察後に、デザインプラットフォームCanvaの画像生成AIを用いて、学生案の椅子コンセプトを映像化しました。授業後、学生たちに「美術科の授業で画像生成AIを用いるのは有り？無し？」を問うたところ、「有り」は8割程で、「構想における一つの判断材料になる」「アイデアの選択肢が増える」「絵が苦手でも自分のアイデアが容易に表現できる」という意見がありました。「無し」は2割程

で「手を動かし、体感しながら考えることも大切」という意見がありました。今後の美術教育においては、ディレクションやキュレーション、真善美、著作権・倫理等の判断力、その基盤となる教養を身につける学びがより求められるでしょう。また、「守破離」のように伝統や生成AIを超える創造が益々重要視されると予想します。そして、それらは、対話型等の鑑賞や試行錯誤してさまざまな感覚を働かせる表現活動によって身につけられると考えています。



馬淵 哲 准教授

大学では初等教科専攻 図画工作専修[初等教育コース]/美術専攻[中等教育コース]を担当。研究分野は美術・デザイン・鑑賞教育、協働PBL、絵画。

■ 経済学部

英文やメール作成など、作業アシスタントとして活用

研究では公共入札に関するデータ分析を扱っています。入札談合が行われているかどうかを、データから検出できるなど、研究へのAIの活用は進んでいます。しかし、生成AIとAIではできることがまったく異なるため、研究への利活用は未知数という印象です。現時点では、ChatGPTを英語の作文・添削、プログラミングなどに使用することで、作業時間の短縮に役立っています。例えば英語の添削では、自分の書いた文章のどこが問題であるかを

指摘してくれたり、メールの文面を、送る相手に合ったフォーマルなテイストに直す提案もしてくれるので、失礼なメールを送ってしまうリスクを減らすことができるかと思えます。これらはインターネットで調べることも可能ですが、自分に合わせてオリジナルの対応をしてくれるのは生成AIならではの、「作業アシスタント」として活用しています。今後も、ほかに良い使い方があれば取り入れていきたいと思えます。



石井 利江子 教授

専門分野は公共入札、入札談合、競争政策、応用計量経済学、機械学習。学外では大津市入札監視委員会委員、日本学術会議連携委員会などを務める。

■ 経済学部

生成AIによる作業効率化で、研究の深掘りに注力

私が担当する経営データ分析演習では、生成AIのビジネス活用を取り入れています。具体的には、画像生成AIを活用して顧客ニーズに合わせたプレゼン用表紙を作成したり、対話型生成AIをリサーチのサポート役にして企業の環境分析に取り組んだりしています。学生の適応力は高く、演習での学生のアウトプットには、私自身、生成AIの可能性や新しい気づきを得ることが多々あります。また私はエネルギー関係を中心に、経済分析、シミュレーションなどの研究に

従事しており、研究の特性上、これまでプログラミングに多くの時間を割いてきました。しかし生成AIを活用することで、プログラミングに割く時間が大幅に短縮され、研究の課題設定や分析、考察などより付加価値の高い作業に時間を使えるようになったと実感しています。リスクや特性については正しく理解した上で生成AIと共生し、技術やビジネスの変化が速い時代に対応できる、効率のかつ創造性の高い人材育成や研究活動に取り組みたいと考えています。



後藤 良介 准教授

機械メーカー勤務を経て本学に着任。専門分野はエネルギー経済学、エネルギーシステム学、データサイエンス、経営分析。

■ データサイエンス学部

画像認識の分野では、生成画像を活用した研究も

ここ1~2年間における生成AIの進歩は、私のようなAIによる画像認識・処理の専門家にとっても目覚ましいものがあります。実写と見間違えるほどのリアルな画像や動画、芸術的なCGやイラストの生成が可能になりました。これにより、商品画像の生成やWebサイトデザインなど、多岐にわたる分野への応用が期待されています。また、これら生成画像を活用し、AIの画像認識能力を向上させる研究も進行中で学術的な影響も大きいです。一方で、既存の著作物に

酷似した画像を生成することに伴う著作権の問題や、ディープフェイクなどの画像生成AIを悪用した行為が問題となっています。これらの問題への対策として、フェイク画像を検出するAI技術の研究も進められています。画像生成AIには明暗が存在しますが、人類にとって単なる便利な道具に過ぎず、歴史を通じて人類がさまざまな道具を使いこなしてきたように、これらの新たな技術も人間の可能性を拡張するために適切に利用することが重要です。



飯山 将晃 教授

専門分野は画像認識・画像処理。製造業から一次産業まで、さまざまな応用フィールドでの研究実績、共同研究の経験を持つ。

■ データサイエンス学部

困難だった自由回答の分析研究の一助に

私たちが目にするアンケートには、問いに対して「よくあてはまる」とか「あまりあてはまらない」といった選択肢で回答する形式のものがよくあります。そのほうが回答を統計的に処理するのに都合がよいからです。これまで、人間が自由に書いたり語ったりした内容を、そのままコンピュータに評価させるのは非常に困難でした。そのため、回答する側がデータ処理の都合に合わせていたわけです。能力テストについても記述式問題の自動採点が長らく研究されてきました

が、なかなか実用にはいたりませんでした。生成AIはこれらの問題を一気に解決するブレークスルーとなりえます。また、資格試験など大規模なテストを運用する際には、情報漏洩や内容の陳腐化を避けるために試験問題を定期的に入れ替える必要があります。問題作成は専門的なスキルを必要とする上に非常に手間のかかる作業ですが、いずれ生成AIがこの役割を担うようになるのではないかと思います。



奥村 太一 准教授

専門分野は心理統計学、テスト理論。テストやアンケートを用いて、人間の能力や性格といった心理的特性を計量的に評価する方法を研究。

データサイエンス学部では 2023年秋学期に

生成AIの科目を開講

社会でも大きな話題になった生成AI。

そこでデータサイエンス学部では、生成AIに特化した科目を
2023年度秋学期に開講。

科目を担当する市川教授に、話をお聞きしました。



市川 治 教授
データサイエンス学部

2018年に滋賀大学に着任、
2024年4月よりデータサイエ
ンス学部長。データサイエンス・
AIイノベーション研究推進セン
ター副センター長。専門は音声
データ処理、テキスト処理。

※国立音楽大学
同大が2023年度から「音楽データ
サイエンス・コース」を開講したこ
とをきっかけに、2023年8月に滋賀
大学と連携協定を締結。

学外からも講師を迎え オムニバス形式で指導

これまでデータサイエンス学部(DS学部)のカリ
キュラムで扱ってきた機械学習と世の中に広く
普及した生成AIでは、その仕組みはまったく異
なります。そこで、生成AIを広く学ぶ科目「デー
タサイエンス特論B」を開講しました。授業は全
15回。前半は理論編、後半は活用編とし、DS学
部の教員9人、そして連携協定を結ぶ国立(くに
たち)音楽大学※から講師を迎えた、オムニバス
形式の授業です。生成AIの背後にある理論的な
枠組みを学ぶだけでなく、生成AIを使った課題
レポートの作成、著作権をはじめとする生成AI
にまつわる諸問題の議論など、多角的かつ実践
的な構成になるよう、心がけました。

生成AIを体験することで 価値を理解

生成AIの仕組みを理解し、利用できることは、
データサイエンスのスペシャリストに必須の知見。
特に「利用による体験」は、昨今AI開発のキー
ワードとなっている「シンボルグラウンディング」
にもつながると考えます。シンボルグラウンディ
ングとは、AIの機械学習を実世界の実体と紐づけ
ること。例えば人間がリングを見たら、「食べた」
「触った」といった体験から、「赤い」「甘い」と
いったリングの概念をイメージできます。対して
これまでのAIは、人間が付与した「リング」とい

生成AIとの付き合い方を考えるきっかけに

新野 美琴 データサイエンス学部 出雲高校(島根県)

「データサイエンス特論B」では、生成AIの仕組みと活用方法について学びます。
2年生、3年生レベルのAIの基礎知識が必須でした。「生成AIとは何?」「どう付き
合っていくべき?」を考えるきっかけになりました。



学生の関心は高く、3年生、4年生の約60名が履修

う記号で識別するのみでした。しかし、AIもテキ
ストだけでなく画像や音声などメディアを用い
た深層学習によって、多面的な潜在表現を獲得
できるようになりシンボルグラウンディングを
獲得しつつあります。この過程では自己教師あり
学習といって、人間のラベリングを介すること
なく、ただ単に大量のデータをAIに学習させれ
ばよいという仕組みを活用したのがプレイクス
ルーでした。人間もAIに負けないように多様な
実体験を積みみたいところですね。

DS学部は生成AIの進化に追随するのではなく、
進化を牽引し、より有効な活用方法と価値の創
出が求められます。学生たちが履修の成果とし
て「人間と生成AIの最善な向き合い方」を挙げ
ていました。「特論B」はブラッシュアップを図り、
今後も開講を予定しています。理論や実践にと
どまらず、新しい技術に学生たちが何を感じ、考
えるのか、これからも期待したいと思います。



授業では生成AIを使ってレポートも作成

日本初の大学院教育プログラム MBANがスタート

経済・経営 × データサイエンス

日本初の学位「修士(経営分析学)」(MBAN: Master of Business Analytics)を
修得できる「経営分析学専攻」が、4月から本学経済学研究科で始動しました。

世界の企業が注目する、次世代経営者向け学位

「修士(経営分析学)」は、海外ではMIT(マサ
チューセッツ工科大学)やUCLA(カリフォルニ
ア大学ロサンゼルス校)などで、本学と同様の
修得プログラムが提供され、今、世界の企業が
注目している学位です。従来のMBAとは違い、
経済・経営の専門知識だけでなく、データサイ
エンスの実践的知識・スキルを学ぶことが特徴
です。

企業には多様で膨大なデータが蓄積されてい
ますが、活用にはいたっていないケースがほとん
どです。本プログラムはDXやマーケティングだ
けではなく、人事労務管理や財務会計・管理会
計、総務企画など企業のあらゆる分野が対象。
次世代の管理職や、CMO(最高マーケティング
責任者)、CFO(最高財務責任者)、CHO(最高
人事責任者)といった経営幹部が、DX化時代に
必須な力を身につけることをめざします。

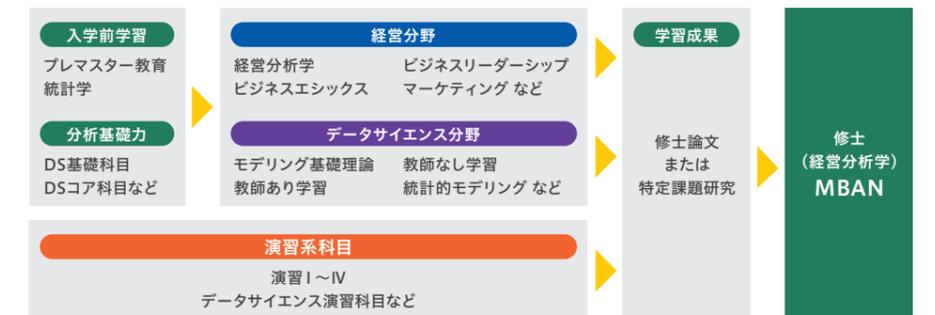
本専攻の設置は文部科学省「デジタルと掛ける

ダブルメジャー大学院教育構築事業」に採択さ
れた際の計画に基づくものです。経済学研究科
とデータサイエンス研究科が、各分野の科目を
提供。データサイエンス研究科の教員が副指導
教員として参加するため、より専門的な知見を
得ることができます。
経済学研究科の次世代に向けた新たな取り組
みに、ぜひご注目ください。



経営分析用の演習室を整備

■入学から修士(経営分析学)までの学び



変化が激しいビジネス社会を牽引できる人材を

中野 桂 教授 経済学研究科経営分析学専攻長

皆さんもDX化の速度がますます速くなってきていることを感じておられるのではないのでしょうか。まさに1年先を
予測するのは困難な状況です。この経営分析学専攻(MBAN)は、政府がDXに関わるすべてのビジネスパーソン
が身につけるべきとして策定した「デジタルスキル標準」を念頭に置き、そうした変化の激しい時代に必要な
スキルが身につくプログラムです。また、単に企業の中で生き残るだけでなく、次世代経営者として企業を
リードしていく人材の育成をめざしています。皆さんとともに、新しい時代をワクワクしながら迎えたいと思います。

しがたい

Challengers

目標に向かって学業に、課外活動にと励む学生たち。
学生時代の今だからこそできる「挑戦」について聞きました。



回り道の経験も
教師になるための糧に

教育学部

矢野 千尋
石山高校、大津清陵高校(滋賀県)



My challenge

念願の 大学生生活

長期入院を経たからこそ 学べる喜びを実感

私は多くの回り道をして大学に入学をしました。第一志望の高校を病気の発症で退学、長期入院を繰り返す日々を送っていました。ベッドの上でしか生活できない日々でも教師になることは諦められず、高卒認定を取り、リハビリの一環として通った通信制高校も無事卒業することができました。だからこそ私にとって大学での学びは毎日が新鮮です。学びたくても学べなかった私にとって、当たり前のように授業に出席できることが嬉しくて仕がありません。

読書やアカペラなど 興味があることを探求

年の違う仲間と過ごす日々が私にとっては毎日が挑戦です。毎月本を30冊借りて知識を増やし、培ったコミュニケーション力を駆使してさまざまな人との出会いから少しは成長できたのではないかと思います。最近では、信頼できる仲間と自由研究としてプラナリアを育てたり、アカペラを通して自分を表現することに挑戦しています。アカペラはサークル内での発表だけでなく県外に向くなど、新しいことにチャレンジしています。人とは違う経験をしたからこそなれる教師の姿があると信じて、少し遅めの大学生活をこれからも楽しみたいです。



大会で学んだチームメンバーの大切さ データサイエンス学部

西澤 克哉 N高校(沖縄県)

My challenge

インターンシップ

バングラデシュで 経済学部記念講演を企画

ゼミで大学院レベルの財務の専門性と世界標準のイノベーションマインドを鍛えた後、新興国2カ国でインターンシップに挑戦。最初に渡航したバングラデシュでは、世界初のマイクロファイナンス機関であるグラミン銀行と、全世界のソーシャルビジネスを支えるユネスセンターの研修に参加しました。「限界を打ち破るビジネスモデルの本質を理解する」この目標を達



成すべく、社員や多国籍の研修生と共に日々の業務に挑みました。また、本学経済学部100周年事業の一環として、グラミン銀行創設者で、ノーベル平和賞も受賞したムハマド・ユヌス教授の講演会を企画・実施しました。

西アフリカでは 給食事業の立ち上げも

その後、世界最貧の国、西アフリカのシエラレオネで農業支援の研修に参加。現地でもマラリアに感染し、苦しい状況に陥りましたが、そこから一念発起して、子どもの栄養失調問題を改善すべく、廃棄野菜を使った給食事業を立ち上げました。蛇口を捻れば水が出る、スイッチを押せば電気が点く。そんな環境から飛び出して、多くの修羅場をくぐり抜けて成果を残してきました。人生最大の挑戦の年となりました。

My challenge

競技プログラミング

先輩に教えてもらい 知識を吸収

滋賀大学に入学し、以前から興味を持っていた競技プログラミングのサークルに入りました。競技プログラミングとは、与えられた問題を解くプログラムを記述する速さと、解けた問題数を競うものです。先輩方にコンテストに誘っていたり、分かりやすく教えていただいたりしたおかげで、楽しく学ぶことができ、パズルや謎解きのおもしろさに夢になりました。

みんなで議論し 国内予選を突破!

1回生の時に初めて、ICPCという大会に先輩方とチームを組んで参加させていただきました。ICPCは、同じ大学で3人1組のチームを組んで、競技プログラミングに挑む大会です。最初の2問は順調に解けましたが、その後の問題では行き詰ってしまいました。そんな中、自分が思いついたアイデアをきっかけに議論が進み、先輩方に形になっていただいていた最終的に問題を解くことができ、国内予選を突破できました。一人では何もできなくて自信がなくても、チームメンバーがいれば、自分も貢献できる部分があること、協力して大きな成果が得られることを実感しました。高校で不登校の経験もあり、後ろ向きだった私が少し前向きになることができました。



ICPC 2022 Asia Yokohama Regional



ビジネスの本質を理解し、社会課題の解決を 経済学部

堀内 毅 名張青峰高校(三重県)



世代を問わず楽しめるコマの魅力を発信

教育学部

徳永 朋大 洛南高校(京都府)

My challenge

コマ競技

学生団体を立ち上げ
オンラインで大会も

小学生の頃、学校で行われたコマ回しの授業をきっかけに、コマの世界に飛び込みました。小学6年生の時には、全日本こま技選手権大会で優勝するほどまでに成長しました。私が大学に入学した時期は、新型コロナウイルス感染拡大の真っ只中。こんな状況下だからこそできるがあると思ひ、コマ友だちの誘いを受けてコマの学生団体「JTTF」を立ち上げました。そして翌年、オンライン上で大会



を開催しました。住む場所、年齢、性別を問わずさまざまな方とコマの競技を通してつながることができたのは、私の学生生活の中で最も印象的な出来事でした。

コマを通して
感動を共有したい

12月にはコマの世界大会で優勝することができました。競技だけでなく、練習会やパフォーマンスを通してコマの魅力を広めています。コマの魅力は、世代を超えて生涯親しめる昔遊びであること、また、目標を掲げ、その成功のために粘り強く取り組む姿勢が育まれることです。4月からは教員として、目の前の子どもたちと「皆でコマを回すのは楽しい!」「今まで失敗していた技ができるようになった!」といった感動の瞬間をたくさん共有していきたいです。

My challenge

プロジェクトの運営

初めて訪れた琵琶湖で
その美しさに感動

大学に入学して初めて滋賀県を訪れ、水面に映る夕陽を見て、琵琶湖の美しさに惹かれました。同時に、所々に落ちているゴミに悲しさを感じました。これをきっかけに、琵琶湖のゴミ問題を伝える「プロジェクトNature」を、学生自主企画として立ち上げました。夏休みには彦根市内の小学校に併設されている4つの学童で、環境を楽しく学べるイベントを実施しました。

たって、私たちもゴミ処理場や琵琶湖博物館などを訪れて、一からゴミの適切な処理方法や琵琶湖について学びました。イベントに参加した子どもたちから「楽しかった」「勉強になった」などの感想を言ってもらい、開催した私たちもやりがいを感じました。

現在は、大人でも難しいゴミの分別を学べるカードゲームを作成中です。また、彦根市中心の活動から、今後は滋賀県全体に琵琶湖のゴミ問題について知ってもらうために、活動を続けていきたいです。

ゴミがない湖畔のために
県全体での活動が目標

イベントでは、琵琶湖のことに関するクイズや、ゴミの分別のゲームなど子どもたちが遊びながら琵琶湖やゴミの影響について学べるものを準備しました。準備するにあ



琵琶湖のゴミ問題をみんなで考える

経済学部

市川 絢子 平城高校(奈良県)

My challenge

アフリカの電力問題

官民協働の奨学金を得て
アフリカの課題に挑む

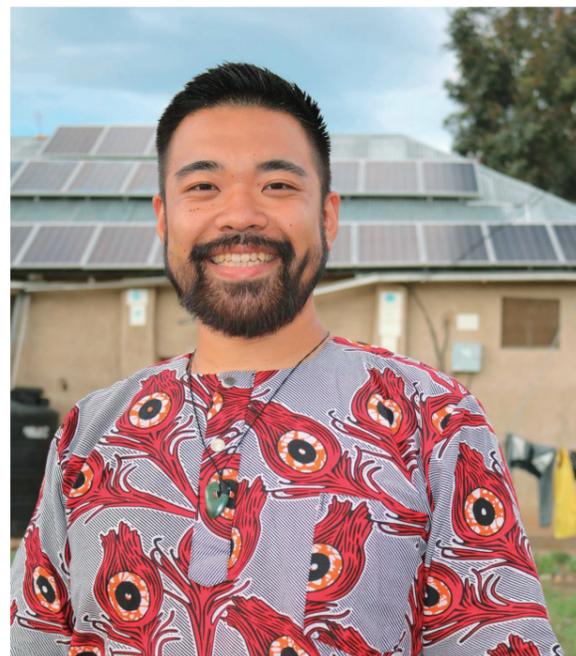
ラグビー部でフォワード・ブロップとして練習に打ち込む一方で、琵琶湖の環境問題を伝えるオリジナル紙芝居『カッパのニラミ』を脚本から作って学童などで上演し、NHKに取り上げられました。さらに、アフリカでは今も6億人以上が電気を使えず、貧困や教育格差が生じていることを知り、官民協働の留学奨学金事業「トビタテ! 留学JAPAN」に選抜され、現地渡航を



決めました。平和な世界の実現をめざして、貧困、紛争、エネルギー、環境問題など世界の課題解決に挑んでいます。

エネルギーインフラの
構築をめざす

現在は、アフリカ東部・タンザニアの人口1,500人ほどの農村で、太陽光発電導入の実証実験に取り組んでいます。太陽光パネルをトウモロコシ製粉工場の屋根に設置し、その電力だけで工場は稼働しています。地元の方々の協力を得て毎日500kgのトウモロコシを回収。支出入の変化、要望、課題を探るため、30軒以上の農家に聞き取り調査をしています。現地の方々だけで太陽光を使った工場運営を持続できるようにすることが目標。当たり前が電気が使える、エネルギーインフラの構築をめざしています。



太陽のように人・地域・社会を照らしたい

経済学部

渡辺 太陽 大阪教育大学附属高等学校池田校舎(大阪府)

My challenge

データによる気象理解

危険だからこそ
安全管理を万全に

私は自分の主張を、データを根拠に発信できるようになりたいと思い、この学部に入りました。部活は高校、大学ともにヨット部です。その爽快感や楽しさを、より多くの人に知ってほしい。そんな気持ちが強くなる一方で、危険を伴うスポーツであるため、安全管理をはじめ部活運営の大変さを学ぶことができました。また、予測困難な

自然現象と向き合うには、肌感覚に頼るだけではなく、数値として捉えることの大切さに気づきました。

水難事故と気象の関係
データから探る

気象を理解する一歩として、私の所属ゼミでは水難事故と気象の関係を解明する研究をしています。分析できる形にするには時間がかかり、また違う分野のデータを紐づけるのは大変です。しかし諦めず、まずは琵琶湖の調査から始め、徐々に領域を広げて、人々が水上活動を楽しめるよう、安全啓発に役立つ成果を出すことが目標です。

4月からは本学大学院データサイエンス研究科に進学します。研究をより深められるのは、非常にありがたいことです。今後も物事の因果関係を正しく捉える力を養って、社会に貢献していきたいです。



ヨット部の活動を学びにつなげる

データサイエンス学部

石崎 寛子 若狭高校(福井県)

輝く卒業生たち

NPO法人Since

麻生 知宏さん
生鷹 幹太さん
門脇 真斗さん

Profile ※専攻名称は卒業当時

- ・京都府出身。2022年3月教育学部学校臨床専攻※卒業。在学中は少林寺拳法部に所属し、学長賞を受賞。根っからのリーダータイプでNPO法人Sinceでは代表理事を務める。(麻生)
- ・京都府出身。2022年3月教育学部環境教育専攻卒業。在学中はバトミントン部で練習メニューや試合の戦術を構築。今は子どもの向き合い方のノウハウを追求している。(生鷹)
- ・滋賀県出身。2022年3月教育学部学校心理専攻※卒業。高校時代までサッカー部で活躍。在学中は地元の児童サッカークラブでコーチを担当。細かい運営課題も実直に取り組む。(門脇)

仲間と共に学校以外の居場所づくりを 不登校児童の成長と自立に寄り添う

学校に行かずとも大丈夫 フリースクールが絶対必要

大学時代は専攻も課外活動も異なる私たち3人ですが、名簿の五十音の並びが近く、入学当初からの顔見知り。共通の教職科目の講義で一緒になったり、休み時間に話をしたりするうちに、グッと距離が縮まりました。そして、4回生の時にフリースクール「Since(シンズ)」を共に立ち上げ、現在、近江八幡市で不登校児童のサポートを行っています。

私自身、不登校経験があり、将来は子どもの支援や福祉に携わりたいと考えていたので、学修と並行してフリースクールや児童相談所について調べたり、ボランティアに参加したりしていました。その中で、不登校の子どもの居場所となるフリースクールがあまりにも不足している現状を

知り、自分で立ち上げようと決意。二人を誘うと快諾してくれました。「学校だけが学びの場、人や社会と関わる場ではない」。滋賀大学で教育、児童支援について深く学んだからこそ、この答えにたどり着いたと思います。今後はフリースクールの必要性を証明していくことが目標。教育学部の先生、在学学生と連携し、Sinceが研究や実習の場になることも進めていきます。(麻生)

新たな目標を得て 子どもと密に向き合う日々

子どもの頃から小学校の先生になるのが夢で、滋賀大学に入学しました。講義や教育実習を経験したことで、子ども一人ひとりとじっくり向き合いたい思いが強くなる一方、それには学校という単位

は大きく、限界があるのでと葛藤。そんなとき、フリースクールの設立・運営に誘われ、即決しました。

Sinceでの勉強、遊びは私たちが指導はしますが、最優先で尊重するのは子どもの自主性、自己決定。「勉強がおもしろい」「人との関わりが楽しい」と、子ども自身が気づき、動いてくれることが健やかな成長、社会的自立につながるからです。夢だった先生とは違う道を選びましたが、2人との出会いによって、子どもとことん向き合えることがうれしいです。これからも、滋賀大学での学びと経験を自信に、不登校が理解される社会の実現に向けての挑戦を続けていきます。(生鷹)

居場所の持続のために 運営面でも力を尽くす

私は学校という場が苦手でしたが、それでも通うしかなく、逃げ場のない毎日を過ごしていました。滋賀大学に入学後は、学校以外の選択肢や居場所、教員としての関わり方を模索。フリースクール設立の話聞いた時は、私と同じような子どもにも学校以外の居場所、選択肢があることを伝えられると、胸が高鳴ったことを覚えています。

今、子どもたちと向き合う中で、小さいところから自信をつけ、何事にも前向きに取り組んでくれること、そして、Sinceを自分の居場所にしてくれることに喜びを感じます。だからこそ、Sinceの安定した運営は法人としての使命。資金面の課題の洗い出し、解決に努め、フリースクールの社会的認知度・信頼性の向上と協賛を図る活動も推進しています。教育、子どもとの関わり方はたくさんあります。自分はどういう教育の道を進んでいくのか、後輩のみなさんには滋賀大学で見つけてほしいと思います。(門脇)



(左から) 門脇 真斗さん、麻生 知宏さん、生鷹 幹太さん

Profile

アステラス製薬株式会社

後藤 まどかさん
(旧姓:村井)

愛知県出身。2015年3月経済学部卒業。同年4月海外展開をしているOA機器メーカーに入社。同社を退職後、2020年7月アステラス製薬株式会社入社。2023年10月からAstellas US LLCに出向。駐在先では唯一の日本人だが、大学時代の留学での生活経験や、文化の違いを乗り越えた自信を糧に活躍。家族でアメリカ生活を楽しんでいる。

出産後、アメリカに駐在 目標はキャリアデザインのロールモデル

即戦力が養われた ゼミでの実践的な学び

経済の知見はどんな道に進んでも役に立ち、将来の可能性も広がると考え、経済学はもちろん、経営学や会計学など関係する分野を幅広く学べる滋賀大学に進学しました。これらの科目の履修を通じて財務に関心を持ち、財務諸表分析に基づく企業価値評価やコーポレート・ファイナンスの専門性を究める宮西賢次先生のゼミに入りました。実際の企業のデータを分析するので、数字の一つひとつが興味深く、企業活動を想像しながら分析することにおもしろさを感じました。そして分析だけではなく、経営課題を発見して、解決策をリアルに考えていく力が身につきました。グループでのプレゼンテーションやディスカッションによって、協働性や発信力なども養うことができたと思います。

1年間の海外留学で 「財務のプロ」を決意

3回生の時には1年間休学して、シンガポールとアメリカに留学しました。休学は不安でしたが、留学は高校時代からの夢だったこと、そして宮西先生やゼミの先輩が「すばらしい経験ができる」と後押ししてくださったことも大きかったです。留学先では、ビジネス英語を学ぶと共に、世界的な企業の経営戦略や財務諸表分



析に関する講義も受講。現地の学生から刺激を受けたことで、「将来は財務のプロとして、グローバルに活躍したい」と決意しました。卒業後は、海外展開をするOA機器のメーカーに入社。財務部門で実務経験を積み、この経験を違う業界でも活かしてみたい、また念願だった海外での活躍を実現したいとの思いから、現在の会社に転職しました。

海外勤務の夢を実現 より深い専門知識の修得を

現在、私はアメリカのシカゴにある現地法人に出向しています。主な業務は、現地での事業展開や研究開発に必要な資金計画と管理です。会計基準や決算、取引方式が日本とアメリカでは異なりますが、国際的な財務の知見が身につくや

りがいを感じています。実は上司から海外駐在の打診があった後に妊娠が判明。ただ、海外駐在の希望が変わらずあることを伝えたとこ会社の後押しもあり、復帰後に正式に赴任となりました。仕事と育児の両立は大変な時もあります。しかし、周りの理解と協力、それに対する感謝の気持ちがあれば、海外勤務やキャリアアップを叶えることができます。私の周囲にいる身近な人にアンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み、偏見)はありませんが、日本ではまだ少ないといわれる女性リーダーのロールモデルになることが私の目標です。滋賀大学は多様性を重んじ、学部や専攻にとらわれずに学ぶことができ、自分のトライしたいことに向かっていけば、教授や先輩、友人などが必ずサポートしてくれる場所。皆さんにも、夢を叶えてほしいと思います。



アクセンチュア株式会社

朱 澤胤さん

Profile

京都府出身。2021年3月データサイエンス学部卒業、2023年滋賀大学データサイエンス研究科博士前期課程修了。同年4月アクセンチュア株式会社入社、ビジネス コンサルティング本部配属。大学時代は学生委員会に属する「ゼミナール協議会」に参加し、滋賀大生の学生生活や就活などをサポート。人の力になりたい気持ちは仕事にも活かされている。

データサイエンスで真実を追究 医療分野に貢献していく

医療統計の学びに注力し スペシャリストとして成長

高校生の頃、ビッグデータやAIに興味があり、これらの知見を人の命を守ることや健康のために活用できたらと進学先を探したところ、滋賀大学に日本初のデータサイエンス学部(以下DS学部)ができることを知りました。データサイエンスは医療の分野にも活用されていること、そして新設学部で未知の世界を探求できる期待感から入学を決めました。入学後は医療分野の学びに力を入れ、医療統計のゼミに所属。糖尿病網膜症の発症予測モデルを構築しました。その後、滋賀大学大学院データサイエンス研究科に進学し、がんの増殖を抑える治療計画を担うAIの強化学習について研究。並行して、DS学部の連携企業との共同研究にも取り組みました。就職は、ひとつの企業やテーマにとらわれず、医療業界全体の課題解決に携わり

たいという思いがあり、コンサルティングファームにデータサイエンティストとして入社しました。現在は、医療機関との共同研究に従事し、治療などに関するリアルワールドデータの仮説検証を行い、社会実装をめざしています。

仮説の構築と検証を 学部時代から徹底

学部時代から現在の業務に至るまで、テーマや課題に対して仮説を立て、関連データを収集し、分析によって仮説を検証・証明していくというプロセスに変わりはありません。プロセスの中では仮説が重要です。学生時代は糖尿病やがんに関する文献を山のように読み、知見を深めました。そうしなければ真実につながる仮説を立てることも、有効なデータの収集・分析も、AIに学習させることもできないからです。このプロセスによって「真実」をつかんでいく



ことがデータサイエンスの醍醐味であり、やりがいを感じています。また、データサイエンスの研究や仕事では、コミュニケーションが欠かせません。今の共同研究でもクライアントからのヒアリングと、チームでの仮説の検証を毎週行い、分析に反映していきます。実は、これも学生時代に繰り返してきたこと。ゼミでは毎週仮説の検証結果と進捗状況を発表し、先生やゼミ生との議論、分析、検証を繰り返しました。

自分だけの専門性が持てる 他にはない学びの場

DS学部の学びは、まさに実社会に直結しています。統計学や情報学などの数理的理論と、プログラミングやエンジニアリングのスキルを修得でき、実際の現象や背景を知り、論理的に考察する文系の授業も充実しています。連携企業は多領域におよび、数も多く、共同研究を通じて社会実装までを経験することも可能です。こうした文理融合と実践学修が充実し、先生を含め、多くの優秀な研究者、データサイエンティストから学べるのは滋賀大学だからこそ。これからデータサイエンスの分野で活躍するには、私にとっての医療統計のように自分だけの強みを持つことが必要ですが、それもDS学部で叶うと思います。

国際交流を支援する制度と施設

グローバルな価値観に触れ 視野を広げるきっかけに

滋賀大学では海外での学びを実現させるために、留学の制度や短期研修のプログラムを設けています。また、海外からの留学生と交流できる場づくりも行っています。

✈️ 海外での学びを支援

交換留学

交換留学制度を利用して学ぶ

世界14の国と地域にある24の大学等の機関と、全学レベルの学生交流協定を締結。学生の交流や教育研究などの相互協力をはかっています。学部2回生以上で、派遣条件を満たす学生は、制度を利用して1年以内の留学をすることができます。

Point

- 留学先大学で修得した単位が、所属学部の審議を経て認定される場合があります。
- 留学期間(1年以内)は本学の修業年限および在籍期間に参入されます。
- 滋賀大学に授業料を納めることで、留学先大学の授業料は免除となります。
- 留学にかかる費用の一部を支援する制度があります。

短期海外研修

異文化体験プログラムを実施

夏季休業期間などを利用して、目的意識をもって異文化を体験できる短期海外研修のプログラムを実施しています。海外の大学で授業を受けつつ、現地での生活や地域の文化に触れることで、日本の生活では得られない体験ができます。

研修先

- 夏季語学研修(ミシガン州立大学) 8月~9月
- オーストラリア研究(ディーキン大学) 2月~3月
- 韓国語学・文化研修(啓明大学) 8月
- フランス語文化研修(西部カトリック大学) 9月
- イギリス研修(リーズトリニティ大学) 8月
- 中国語研修(東北財経大学) 3月
- メキシコ語学・文化研修(グアナファト大学) 2月~3月

✈️ 海外からの留学生との交流を促進

留学生と日本人学生の交流の活性化を図る拠点として、活用しています。多様な国際経験や異なる価値観に触れる機会を増やすことで、国際交流への関心や、国際感覚の醸成をめざします。

グローバルプラザ彦根



グローバルプラザ大津



留学体験記

短期海外研修での経験が 次の目標への自信に



有木 胡桃 教育学部 甲西高校(滋賀県)

夏に行われた韓国での短期海外研修に参加しました。レベルテストの結果、韓国語で授業が行われるクラスになったこともあり、文法や単語だけでなく、スピーキングにも力を入れて教えていただくことができました。韓国の伝統的な遊びをしたことも印象に残っています。授業以外でも、一緒に過ごした韓国人のバディと積極的に交流したり、日本人同士でも韓国語を使うなどを意識。お互いの夢を相談しあえる友人ができ、行って本当に良かったと思います。次の目標は韓国への交換留学。現在、国際交流機構の先生に相談をしながら準備を進めています。交換留学では韓国語で専門分野の授業を受けるのですが、短期海外研修への参加で自信ができました。

- 留学期間：2023年8月7日~8月25日
- 留学した大学：啓明大学(韓国)
- 留学のタイプ：短期海外研修



19日間の「韓国語学・文化研修」には、韓国語の勉強はもちろん、観光のリサーチや健康対策などの準備をして挑みました

年間行事予定

4月	・新入留学生オリエンテーション ・留学説明会
5月	・共創グローバル人材プログラム募集説明会
7月	・留学生対象就職活動ガイダンス
9月	・新入留学生オリエンテーション
10月	・留学説明会
12月	・留学生対象就職活動ガイダンス
通年	・滋賀大学グローバルセミナー(概ね月1回程度)

ニュース & トピックス

滋賀大学の最新ニュースを
YouTubeで毎週、発信しています。



滋賀大学の行事やさまざまな取り組み、
学生の活躍など注目のニュースをお届けします。



式辞を述べる竹村学長



滋賀県副知事の大杉住子氏による祝辞

彦根高商創立百周年記念式典を開催

11月4日、滋賀大学経済学部の源流である彦根高等商業学校の100周年を記念して、「彦根高商創立百周年記念式典」を滋賀大学講堂にて開催しました。当日は、文部科学省高等教育局長の池田貴城氏の代読で高等教育局国立大学法人支援課企画官の田井祐子氏から、そして滋賀県知事の三日月大造氏の代理で副知事の大杉住子氏から祝辞をいただきました。さらに旧彦根藩井伊家第十八代ご当主の井伊直岳氏にご紹介いただき、茶道裏千家前家元大宗匠・千玄室氏より「今の心」というテーマでご講演いただきました。最後には、陵水男声合唱団による素敵な歌声で「彦根高商校歌」および「琵琶湖周航の歌」が、本学のオーケストラ部の伴奏で演奏され、閉会となりました。



陵水男声合唱団の歌声が講堂に響き渡りました

駐日ウクライナ特命全権大使コルスンスキー・セルギー氏 講演会 「ウクライナ：歴史、文化、平和への道」を開催

10月19日、滋賀大学講堂にて駐日ウクライナ特命全権大使コルスンスキー・セルギー氏 講演会「ウクライナ：歴史、文化、平和への道」を開催しました。本学にはウクライナからの留学生が2名在籍して勉学に励んでおり、そのご縁から今回の講演会が実現しました。講演はウクライナ語で行われ、コリヤ・ザモルスカ駐日ウクライナ大使館二等書記官によって日本語に逐次通訳され、大使の言葉が参加者に届けられました。ウクライナの国章がウクライナ語の「自由」を意味する4つの文字で構成されていることから始まり、ウクライナの歴史的背景や伝統ある文化、日本とウクライナの関係について紹介いただきました。そしてロシアによるウクライナ侵攻以降、ウクライナの各地が破壊された様子を写真で説明されました。講演後の質疑応答では、参加者から「私たちにできることは」と問われ、コルスンスキー大使は「日本は大きな戦争や大震災から復興している。ぜひ今後のウクライナの復興にも協力いただきたい」と述べられ、大きな拍手とともに講演を終えられました。



コルスンスキー・セルギー氏(前列、右から3番目)を囲んで

【教育学部】

■ 附属中学校で国語と英語の垣根を越える授業を実施

12月6日、教育学部附属中学校において、国語・英語の垣根を越えて言葉について考える授業を実施しました。外国語(英語)の学習指導要領によるもので、まず教育学部で国語学の松丸真大教授と英語学の于一案教授がコラボ授業を行い、国語学の学生と英語学の学生が合同チームを編成。チームごとに日本

語と英語の共通点・相違点について発表し、後日、3名の学生が附属中学校へ。授業では、「wear」と「着る」は同じ意味なのかを、グループディスカッションや、「着る」という動作の実演を交えながら、日本語と英語の違いを一つずつ丁寧に説明し、中学生を言葉のおもしろさや豊かさに引き込んでいました。



当日は中学3年生約100名が授業に参加

■ 渡邊史准教授が「ウィーンオペレッタコンクール」プロフェッショナル部門にて第2位

教育学部の渡邊史准教授が10月28日に行われた第11回「ウィーンオペレッタコンクール」プロフェッショナル部門にて、第2位(1位該当者なし)および観客賞を受賞しました。プロフェッショナル部門ではしばらく入賞者がありませんでしたが、ストールを用いた個性的な振り付けによる「チャルダッシュ」と軽やかな「ワルツ」の対比、日本語とドイツ語ディクシオン(発音)の明瞭さが評価され、5年ぶりの入賞者となりました。

【経済学部】

■ 和菓子店とタッグを組んだ「道開きのサクラサク」新発売

経済学部の学生のアイデアをもとに生まれた和菓子「道開きのサクラサク」が、9月22日より発売に。2021年度春学期開講の全学共通教養科目「アントレプレナーシップII」(担当: 上田雄三郎特命教授)では、有限会社とも栄菓舗(滋賀県高島市)の取締役、西沢勝仁氏も参加し、学生たちが西沢氏にビジネス提案を

行ったことをきっかけに、学生有志のプロジェクトが発足。約1年半の開発期間を経て、「現役大学生が受験生親子を応援する商品」を切り口に新商品が誕生しました。記者会見にはプロジェクトに携わった経済学部の油谷光喜さん、中野美音さん、石原優花さんも登壇しました。販売はとも栄本店で1個税込み500円。



記者会見での撮影の様子

■ ノーベル平和賞受賞のムハマド・ユヌス教授による経済学部100周年記念講演

バングラデシュの経済学者でノーベル平和賞を受賞されたムハマド・ユヌス教授による記念講演会を開催しました。この講演は、バングラデシュにインターンシップ中の経済学部4回生の堀内毅さん(本誌P10)とユヌス先生の交流から、堀内さんのゼミ教員である宮西賢次准教授のコーディネート、同窓会組織の陵水会と、同会が運営するネットワーク組織「NextRyosui」の協力によって実現。この様子は動画でも発信しています。

動画は
こちらから



【データサイエンス学部】

■ データサイエンス分野の協働に向けJICAと連携

10月4日、本学データサイエンス・AIイノベーション研究推進センターは、独立行政法人国際協力機構(以下、JICA)が協力を展開している開発途上国でのデータサイエンス分野の協働を目的として、JICAと連携に関する覚書を締結しました。JICAは開発途上国のデジタル化推進による課題解決と価値創出、情報通

信環境の整備、人材育成に取り組んでいます。特に、ブータンではデジタル化の推進は重要政策。まずはブータンにおいて、本学が開発したコンテンツ「高校生のためのデータサイエンス入門」を活用して人材育成を図るほか、この経験をもとに、他の開発途上国においても連携協力を進めていく予定です。



協定書を披露する苗田センター長(左)と木村所長

■ 「NEC Analytics Challenge Cup for Business Idea 2023」で最優秀賞を受賞

データサイエンス研究科1年の戸簾隼人さんが「NEC Analytics Challenge Cup for Business Idea 2023」のLLM(大規模言語モデル)を活用したアイデア企画コンテストにおいて、「重度認知症患者向け 介護支援LLMデータロボ Co-Chappie」を発表し、最優秀賞を受賞。この快挙に戸簾さんには学長賞が授与されました。



滋賀でがんばる2023年に入学した学生たちが、それぞれのキャンパスで過ごした実体験と生の声をお届け！

滋賀大学での学びと将来の「展望」

近江商人に学ぶ経営の真髄



Economics

名前：井上開晟さん
学部：経済学部
学科：総合経済学科
部活：FLCC、NextRyosui
滋賀大学学園祭実行委員会など

私は元々理系の高校出身で大学も最初は理系の学部に進もうと考えていました。しかし、人と関わることやモノづくりが好きで企業経営の分野に興味があった私は、将来どんな仕事をしたか考えた時に、社会や企業をコアとなる部分から支えられるような人材になりたいという思いから文系に進路を変更して、滋賀大学経済学部での学びの中でキャリアを形成することを選びました。特に滋賀大学の経済学部では、企業経営に関する分野について、近代の営業・経営スタイルのルーツともいえる近江商人による商業のあり方や理念について知見を得られ、経営の根本から学ぶことができます。そのため、滋賀大学の彦根キャンパスは私にとって非常に魅力的な環境が揃った場所でした。

いろんなことに挑戦したいからこそサークルに

彦根キャンパスでは4月に、体育会が主催するイベントや、「友活」というイベントをはじめとする多くの新入生が集うイベントが開催され、そこでは新たな友人との出会いだけでなくたくさんの先輩とも出会うことができました。私はいろんな人と関わりたいという思いから、参加できる新歓イベントには可能な限り参加するようにしました。現在では私自身、限られた大学生活の中で、いろんなことに挑戦していろんな経験を得たいという思いから、時間やスケジュールに融通の利きやすい「サークル」での活動を選択し、FLCC、NextRyosui、アルティメットサークル、学祭実行委員会、AIESECの5つの団体に活動しています。

「面白い」を求めて滋賀大学へ

分野を変えての挑戦

私は今、データサイエンス学部でプログラミングの勉強をしているのですが、高校時代は自分の進路について、ものすごく悩みました。特に「これがやりたい！勉強したい！」と思えるような学部・学科がある大学になかなか出会うことができず、そんな時に出会ったのが滋賀大学のデータサイエンス学部でした。勉強の分野としても高校ではなかなか経験できないような勉強ができることや、実際に学部見学に行った際に学生一人ひとりに質の高い教育が行き届いている印象を受けたこと、そしてなんと心から「おもしろそう」と思えたことが一番の決め手になりました。

春のイベントでの新たな出会い

4月の初めはたくさん友だちを作りたいという思いから、春に開催された新歓のイベントにはできる限り参加するようにしました。その中でも特に魅力を感じて入部したのはAIESEC滋賀大学委員会とボードゲーム部(卓上ゲーム部)でした。両団体とも入部したのは4月の末頃で、先輩の雰囲気や活動頻度、勉強と両立できるかなども含めて入部する

どうか熟考しました。4月にはいろんな団体が主催するイベントがあるので、それらに参加すれば友だちができること間違いなしだと思います。

データサイエンス学部で学ぶことの面白さ

データサイエンス学部での勉強は文系から理転した自分にとって、初めてのことはばかりで特にプログラミングや解析学、線形代数に関する授業ではついていくのが思いのほか大変でした。また課題も授業が始まってすぐにあったので4月、5月は授業に慣れるのに時間がかかった印象があります。ただ、そんな状況だからこそ毎日の勉強が本当に新鮮で、別の科目で得た知識がまた別の科目でも生かされることで「なるほど！」と知識のつながりを実感でき、データサイエンス学部での勉強が最近では非常におもしろく感じています。

滋賀大学で学ぶからこそ見えた未来

滋賀大学に入るまで、私自身、将来何になりたいのか具体的な目標は決まっていなかった。滋賀大学に入学してからは、学ぶことが明確なデータサイエンス学部での学びの中で、自分がやりたい勉強に打ち込むことができる環境のおかげもあってか今後どうなりたいか、何をしたいかが徐々に明確になってきました。今後はプログラミングの勉強にさらに注力して、最終的には1からシステムを構築して何か一つオリジナルのプログラムを書き上げたいと思っています。

繋がる経済学部での「学び」と「日常」

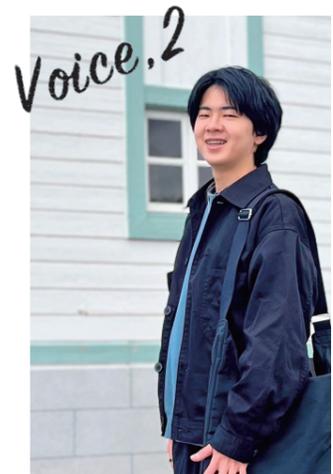
春学期に履修した科目の中で特にマーケティング論がおもしろかった印象があります。例えば、普段スーパーで陳列されている商品には製造から販売までのプロセスがあり、マーケティング論ではそのプロセスを学ぶことで、ヒット商品をどう生み出すかの裏側を知ることができるのが私自身とても興味深く、勉強していてもしるいなと感じました。

充実した半年間を振り返って...

大学生活が始まって感じたことは、大学生活をデザインするのは自分自身でかつ、大学4年間を良くするのも悪くするのも自分次第。考えて行動に移せる人がより良い大学生活を送ることができるということをこの半年間で感じました。人との出会いや経験との出会いに関しても、自分からアクティブに動いて自ら掴みに行くしかないということ学びました。

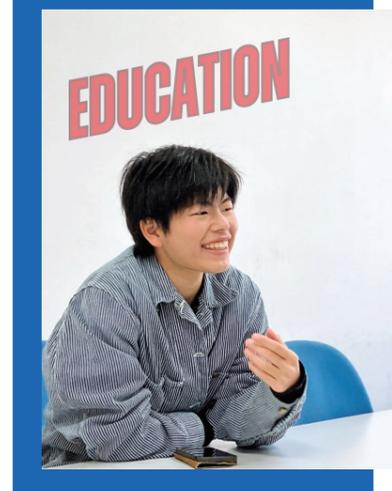
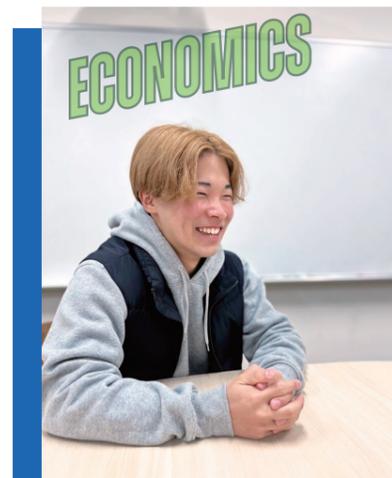
目標達成のための時間の活用

今後は、大学生活にも慣れはじめて生活にも余裕が出てくるからこそ、時間をうまく使って授業やサークル、自分のやりたいことを両立させていきたいです。また、私は留学も考えているので英語の勉強も計画的に進めていきたいと考えています。大学生活は時間があるように見えて、実際は限られた時間の中で自分のやりたいことをやらないといけないので、自分が本当にやりたい事は何かをしっかりと見極めて、全てが中途半端で終わることのない悔いのない大学生活にしていきたいです。



Data science

名前：田中諒さん
学部：データサイエンス学部
学科：データサイエンス学科
部活：ボードゲーム部、AIESEC滋賀大学委員会



滋賀大学学生広報サポートチームSNSアカウント

Instagram



X (旧 Twitter)



滋賀大学の教育学部でしかできない

私には中学生の頃から教師になりたいという夢があり、生まれ育った滋賀県の教育環境をより良い環境にし、少しでも勉強が楽しいと思ってもらえるような教育を届けたいという思いから、教育学部がある大学に進学することをめざすようになりました。特に、滋賀でしかできない経験を教育にうまく組み込むことで一人でも多くの児童・生徒に身近なところから環境に興味を持ってもらい、地球環境と人との関わり方について考えてもらえるような教育を提供していきたいと思い環境教育専攻がある滋賀大学に進学することに決めました。



Education

名前：森川陽大さん
学部：教育学部
課程：学校教育教員養成課程 環境教育専攻
部活：軽音楽部、アカペラサークル

桜とともに訪れた希望に満ちあふれた春

不安と期待でいっぱいの中、迎えた4月。私は教育学部の学生が運営する「さくら咲くツアー」に参加して2つの部活とサークルに出会いました。一つ目は軽音楽部で、二つ目はアカペラサークルです。いろんな部活やサークルの見学に参加する中で2団体に入部を決めたその決め手は先輩方の熱烈的なアピールと、サークルの陽気で楽しそうな雰囲気でした。そこでは優しい先輩方や個性豊かな新たな友人などたくさんの人との出会いがあり、これまであった不安が吹き消され、希望に満ちた春の幕開けを迎えることができたのではないかと感じています。

5月の挑戦と得たもの

5月からは、実際に人に何か教える経験をしてみたいという思いから、個別学習塾でアルバイトを始めました。実際に挑戦してみると、想像していた以上に人に何かを教えたり、担当している児童や生徒に合わせて学習の流れを決めたりすることが難しく、最初はとても苦戦しました。この経験は今後の自分にとって貴重な経験になったと思います。今では担当する児童・生徒の目標に沿ってそれを達成するためのプロセスを逆算して組み立てたり、よりわかりやすく教えるために一度自分の中で教える内容を分解して理解し直してから教える段階に入ったり、事前準備も含めて人に何かを教えることのおもしろさが少しずつわかるようになってきました。この経験から大学生だからこそいろんなことに挑戦してみる大切さを知ることができました。

春学期を終えて...

春学期を終えて感じるのは、課題や部活・サークルの活動に追われながら、想像していた大学生活よりも忙しく充実した日々を送ることができ、部活やサークルでできた友人とは日々の練習や合宿で共に苦楽を分かち合いながら、かけがえのない時間を過ごすことができたこと。また、入学当初に入門セミナーで教わったレポートの書き方や大学での勉強の進め方は課題や研究報告、テスト勉強をする際にとても役に立ちました。

夢を実現するための大学生活を

これまでの高校生活と比較して大学生活は勉強や部活、遊びやアルバイトなど生活の自由度が高くなった分、それに伴って自身への責任が大きくなり自己管理をしっかりしないと、あっという間に時間が過ぎていってしまうので、少しでも時間を有効活用するためにも自分を律しながら自分の「やりたい」の実現に向かって勉強と部活、アルバイトなどと両立しながら計画的に大学生活を過ごしていきたいと思っています。

shiga-uni
リアルタイムしがゆに

滋賀大学学生広報サポートチームでは学内外に向けて学生を中心に広報誌やSNSなどを通して学生目線で情報発信をしています。そのほかにも誌面や大学オリジナルグッズのデザイン、取材インタビューなども実施しています。少しでも興味を持っていただけた方は、ぜひ、広報サポートチームへ！(滋賀大学学生広報サポートチーム一同)

「夢」を実現するための学び

琵琶湖を活動拠点に 風を読んでコースを進む

▶▶彦根キャンパス

滋賀ウインドサーフィン部

私たち滋賀ウインドサーフィン部は、お隣の滋賀県立大学と一緒に部活動を行っています。また、県立大学だけでなく、全国の大学と交流を持ち、刺激し合いながら、切磋琢磨に練習をしています。ウインドサーフィンとはサーフボードにヨットのようなセイルを立てた艇に乗り、ウインドというくらいですから風を受けて進みます。強風の日には時速30キロ以上のスピードが出て、風を切る音が聞こえ、とってもスリルがあります。また、湖面を見て自分なりのコース取りを考えて行う頭脳派スポーツです。滋賀県の象徴である琵琶湖を活かした部活で、キャンパスから自転車で約10分の松原水泳場で活動しています。土曜日と日曜日が主な練習日で、練習後は学年関係なく食事に行って練習の疲れを癒しています。これからの展望としては、全国制覇の名の通り、滋賀ウインドサーフィン部が全国で一番の部となるよう日々精進して参ります。



2023年度の大会では多くの部員が入賞しました(上)
琵琶湖での練習で気分が上がります(下)

2023年度の出場実績

3月	JUBF National Team選考会
6月	関西新人大会第1戦
8月	世界選手権フランス大会
10月	関西新人戦第2戦 北港大会
11月	インカレ個人戦 全国大会



記録更新をめざして 2キャンパスで切磋琢磨

▶▶大津キャンパス

陸上競技部

私たち陸上競技部は滋賀大学では珍しく、彦根・大津両キャンパスが同じチームとして活動しています。毎日一緒に練習するわけではありませんが、合同練習や大会などでは互いに刺激し合いながら、陸上競技に取り組んでいます。部員には強豪校出身で競技力向上に全力を注いでいる人もいれば、陸上競技に高校まで関わったことがなかったという人もいます。陸上競技への取り組み方は人それぞれです。しかし、全部員が陸上競技が大好きで、日々の部活動を通してその気持ちは大きくなるばかりです。毎年5月には近畿地区最大の大会である関西インカレがあります。この大会には参加標準記録が設けられており、その突破はかなり難しいです。2023年度は個人種目で4名、リレーで3種目のみの出場にとどまりましたが、今年度はこの数以上の出場ならびに活躍を目標にしています。日頃よりお世話になっている皆さんに恩返しをしながら、これからもさらに強く楽しい部活動をめざします！



和歌山で行った夏合宿での集合写真(上)、走幅跳を専門とする部員の跳躍(下)

2023年度の成績

5月	第100回関西学生陸上競技対校選手権大会
	男子100m(個人種目) 吉原翔太、田中亚周
	男子200m(個人種目) 田中亚周
	男子三段跳(個人種目) 西村悠和
	男子円盤投(個人種目) 山下優貴
7月	第82回滋賀県選手権大会*
	男子円盤投 山下優貴 第5位
	女子三段跳 木田直歩 第5位
	男子4×100mR 第5位
	男子4×400mR 第5位



*滋賀県代表として第91回近畿陸上競技選手権大会出場権を獲得。

Pick up CLUB & CIRCLE

彦根と大津の2キャンパスで活動する部活やサークル、自治会から、4団体を紹介します。

大学キャラクター「カモンちゃん」を 多くの人に知ってもらうために

▶▶彦根キャンパス

カモンちゃん倶楽部

カモンちゃん倶楽部とは、滋賀大学の公式マスコットキャラクターである「カモンちゃん」を、SNSや地域のイベントなどを通して世に広める活動を行っている文化サークルです。日々の活動としてはSNSの運営やグッズ制作のほか、お誕生日会といったイベントを企画しています。当サークルのメインイベントは、滋賀大学の学園祭である「滋大祭」と、年に一度、彦根で開催される「ご当地キャラ博」に出展することで、特にご当地キャラ博ではカモンちゃんの缶バッジやクッキー、絵葉書など、部員が考えたさまざまなグッズの販売に力を入れています。また、カモンちゃんのX(旧Twitter)公式アカウントのフォロワーは2000人を超え、徐々に全国でファンが増え始めており、ご当地キャラ博では実際に遠方から会いに来てくださる方もいます。このようなファンの方々に感謝しつつ、今後はより多くの人にカモンちゃん存在を知っていただけるよう、これまで以上に魅力発信に尽力していきます。



「ご当地キャラ博」に出店し、カモンちゃんをPR

2023年度の活動

- 滋大祭(春・秋)に参加
春はキャラメルポップコーンの模擬店を、秋はたこ焼きとベビーカステラの模擬店を出店したほか、カモンちゃんの練り歩きを実施。
- カモンちゃんのお誕生日会(11月29日)
誕生日を、部員みんなで盛大にお祝い。
- 広報誌「しがだい」58号 表紙協力

✉ @kamonchan1029



カモンちゃんのお誕生日をお祝い

茶の湯を通して 日本文化にふれるひととき

▶▶大津キャンパス

茶道部

茶道部は、毎週木曜日に合宿所1階にて活動しています。2023年度は1回生から4回生まで7人といった少人数で和気あいあいと活動しました。部員のほとんどが大学生になってから茶道を始め、部員一同、美しい所作をめざし、おいしいお抹茶を点てられるようにお稽古に励んでいます。さらに、お稽古を通して日本の文化や茶の道を修める楽しさを学ぶことができます。毎週、茶道の先生が大学に来てくださるため、本格的なお点前を学ぶことができます。また、週に1回の活動であるため、学業や自分の予定との両立、他の部活動やサークルと兼部しやすい環境です。そのため、忙しい大学生にも優しい活動内容になっています。そして、自分たちで点てたおいしいお抹茶をいただくことができたり、お点前で使う素敵なお道具に出会えたりもします。2024年度も紫雅祭で模擬店を出店したり、小・中学生や留学生が茶道を体験できるような機会をお届けしていきたいと考えています。



「紫雅祭」の模擬店での様子。着物姿で参加する部員も

2023年度の活動

4月	新入生歓迎茶会
7月	留学生と体験活動
11月	紫雅祭にて模擬店を出店 地域の中学生と体験活動
3月	卒業茶会

